

令和6年度 第1回公立鳥取環境大学経営審議会 議事要旨

- 日 時 令和6年6月20日(木) 14:00～16:00
- 場 所 本部講義棟3階 大会議室(対面+オンライン会議)
- 出席者 小林朋道委員、寺口嘉昭委員、中山実郎委員、田中洋介委員、若原道昭委員、齋尾安広委員、児嶋祥悟委員、澤 耕司委員、山田修平委員、福嶋明子委員
[10名/10名]
山崎安造監事、北野彬子監事[2名/2名]
- 欠席者 なし

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 審議事項

(1) 令和5年度事業に係る業務実績報告書について

事務局から令和5年度事業に係る業務実績報告書について説明があり、原案について承認された。

〈主な意見等〉

- ・ 県内就職率に掲載されている学生の4年前の入学時の県内就学率はどれくらいだったのか。
- ・ 危機管理で、資料P11の安全管理(No.147-150)が4→3になったのはなぜか。
→P30の資料より16%
危機対策本部会議をコロナ関係が5類になったため、開催していないことによる。
- ・ 当然、会議の開催が少なくなったのだろうが、状況に応じた安全管理をきちんとやっているのであれば、今回も4でよいのではないか。
→合理的な意見を言っていたので、検討する。
- ・ P30の入試の状況を見ると開学時に比べて大変倍率が高いのかなと思った。それから県内合格者のほとんどが入学されているようで、他大学に落ちて来たというよりここに来たくて来ている学生が多いのかなと思う。
→ 県内で受験される学生は、県内に残りたいという意思を持って、推薦から受けていただくケースが多い。ただしこれを30%に上げるとするのが次の目標にあるがなかなか難しい。

(2) 第2期中期目標期間に係る業務実績報告書について

事務局から第2期中期目標期間に係る業務実績報告書について説明があり、原案について承認された。

〈主な意見等〉

- ・ 県内の入学率と就職率の全国の公立大学の一覧表のようなものは有るのか。当然、地域や学部によっても違うと思うが、鳥取と似通ったところはどうなのか。一覧表があれば。
- ・ 環境と経営でも違ってくると思うので、学部別に見てみるのは大切かと思う。
→本学のように地方の公立大学で県内入学率が低いというのは、比較的珍しいパターンで一覧表というのは無いが、公大協の資料から個別にみているとうちのように30%台、20%台というのは非常に珍しい。ご意見を参考にさせていただく。

県内の高校をすべて回ってきたが、環境と経営では、受け止め方が違っている。受験となるとやはり環境は数学とか理系という意識を持たれている。その辺りもう少し踏み込んで分析していきたい。

(3) 令和5年度決算について

事務局から、令和5年度決算について報告があった。

(主な意見等)

- ・ 運営費交付金というのは、どこでどのように決まっているのか。
→運営費交付金は、標準分と特別分に分けられている。標準分については、3年に一度、設置者と協議を行い、1年間にどの程度使うかという経常経費を決定する。そこから大学の自己収入を差し引いた金額が運営費交付金の標準額となる。毎年、特別分については例えば施設整備のお金ですとか高額になれば、施設整備費補助金(5,000千円以上)を設置者に認めてもらって運営費交付金の標準分、特別分、施設整備費補助金として設置者から頂ける金額となっている。概ね標準分は今ですと8億3千万程度となっている。
- ・ 現在は、学生が集まっているが、もし学生が集まらなかったら運営費交付金が大きくなるのか。
→運営費交付金の基礎は、地方交付税で基本となる経営学部の学生1人あたりが21万2千円掛ける人数となる。環境の方は、7倍くらいになる。それぞれで計算した金額が、国から設置者に地方交付税で来る。それをマキシマムにして、設置者が考えて基本的な物と施設整備に係るものとしてしている。学生数が減ってくると運営費交付金も減ってくる。それをどうするかは、また別の議論になる。
- ・ 国立大学の中で授業料の値上げの話が出ているがそのこのところはどう違うのか教えて欲しい。何が足りないのか、研究費が足りないのか、人件費が足りないのか。
→報道レベルの話であるが、国公立の場合は、普通535,800円だが、国立は上限が+20%取れる。既に数校取っている。国大協の会長コメントによると「国からの運営費交付金が毎年減らされてきている、もう持たない。やむを得ず値上げせざるを得ない。」とのこと。大学によって状況が違うので、地方の公立大学と違い兵庫、大阪、東京の公立大学では、無償化の話があるなど極端になっている。うちでは、表面上は黒字になっているが、実際に使えるお金はごくわずかである。国立大学の施設整備は、規模が違うので、それなりにきちんとした会計制度がある。公立は自己財源を基金として積んで、施設整備に対応できるようにしている。

(4) 学長選考会議委員の選任について

寺口副理事長から学長選考会議委員の選任について説明があり、齋尾委員、田中委員、寺口委員が選任された。

3 報告事項

(1) 第3期中期計画概要について

事務局から、第3期中期計画概要について報告があった。

(主な意見等)

- ・ 県内就職率が19.1%で目標の30%にはるか届かない。第3期の目標も30%で中間年の令和8年度の目標が27%ということで、先日県内5つの高等教育機関が鳥取県と協定を結ばれた。その中の目標値がまさに2026年が27%でこれとあっているんだと確認した。実際問題19.1%を3年後に27%まで上げるというのは、すごくハードルが高いと思う。鳥取県は今、年間移住者3,000人を目標に若い世代の移住を進めているが、一般移住者は、他県との取り合いにな

っている。対地方と首都圏の構図はあるにしても、鳥取県からどうしても出ざるを得ない県内高校の卒業生については、出来るだけ鳥取県に帰ってきてもらえるようキャリア教育も含めて行く必要がある。一方で学生の8割が県外から来ている鳥大、環境大学でこれをいかに定着させるか。鳥取県も今若者のUターンと定住という戦略本部を作って、いかに若者が定住してくれるかということ若者目線の意見を聞きながら練っている。戦略本部の下にワーキンググループができたので、県内の大学と一緒に検討していきたいと思っている。

→地方を大事にするという意識、持続可能な社会の発展への貢献が、これからの若者にとっても必要だという思いがあり、力を入れていきたいと思っている。

志願者を確保できないと大学が潰れるので、そういう点についても目を向けていかないといけない。県外からたくさん鳥取に来てくれているのは、オープンキャンパスなどである程度魅力を感じて来ていると思う。その魅力を彼ら自身が体験して、人との繋がりとか自然の豊かさとかそういうものが彼らの中で段々と大きくなり、愛着を持ってここに住みたいという気持ちに変わっていくというのも一つの方法だと思う。

そのための方法として、長期間地域の中で同一の相手先で長く顔見知りになるような体験を魅力づくりのワーキングでも考えていきたい。県内にいろいろな企業の方がおられるので、バスツアーをしたりして丁寧に企業の紹介をしているが、県内独自の細かいところの面白さ、そういうところが十分に深く伝わっているかというともう少し浸透させる必要がある。

「鳥取グリーンベンチャー」という科目で、実際にベンチャーを立ち上げている方は少なかったが、講師をお招きし、話を聞いてみると面白いことをされている色んな人材がいらっしまった。例えば、私の分野は自然環境の保全ですが、それをするためには収益が生まれないと出来ない。環境保全もどこかの助成金だけでは続かない。そういうことをすることによって雇用が生まれたりとかwinwinの関係にならないと持続的に自然を守れない。それはいろんなところで言える事だろうとおもう。そういったことをトライしている企業とかもあるし、もう少し深掘りして学生に良さを知らせたいという思いで作った科目。そういう気持ちがある学生は、喜んで勉強して現地に行って説明を聞いている。そういう考え方によって定着も増えていく可能性もあると思っている。

今春の県内就職の状況を見てみると学部差があり、経営学部23.2%、環境学部では14.5%、平均すると19.1%である。学部差を検討して、対策をする必要がある。その中でも県外出身者の県内への就職が両学部ともに増加している。この辺のところ、一つの傾向として見られる。大学としても色々な就職の機会に際して、まずは県内の事情やどんな企業が有るのか、どんなことで活動されているのか等様々な情報発信をもっともっと充実していかないといけない。まずは、就職活動の選択の中での情報発信を経済界の皆さんと共に手厚くしていくことで一致している。もう一つ県内就職ということ考えると新卒だけでは無く、Uターンということ考えたほうがよい。この大学の卒業生が一旦は県外に出ても、その後Uターンで帰ってきている人やUターンを考えている人の把握が今のところできていない。その辺りが情報が得られたら、そういったUターンを考えている人たちに寄り添うようなことが色々手厚く出来るんじゃないか。卒業生の県内就職率という広い範囲でとらえれば、県内就職率の向上に繋がるのではないかと考えている。

- 先日の県議会で県外に就職した人が帰りたいときに相談できる窓口が無いのではないかと指摘があり、まさに県もそこを課題と考えている。ワーキング等でいろいろな動きが出てくると思うが、高等教育機関に窓口を作ってはというような答弁に聞こえた。今後そんな動きも出てくるのではないかと。
- ずっと鳥取にいと鳥取の良さが解らない、自分も子育てしていて遊びに連れていけるところが無いなと思っていた。子供が県外の大学に行き、県外で就職したが、「子供を育てるには、や

っぱり鳥取だ」と言って帰ってきた。やっぱり一旦出たの方が、鳥取の良さがわかるんじゃないかなと思う。

- ・ 一度大学院をかましてみては。

→今、DX 等が必要な時代になってきている。本学でその辺りがサポートできるような体制を大学院を中心にして作っていくということも考えている。

- ・ 自分も以前、東京に進学して資格を取った。東京は、住居費も高くやっていけるか不安になり、鳥取に帰って来て開業した。やはりどこに重点を置くかだが、帰って来て正解だったかなと思っている。若い人に田舎はいいよと話している。

→U ターン、一度外に出てみる経験も良いのではないかなと思う。外に出て、鳥取の良さがわかるということもある。そこのところで、県内入学率を増やすというのは、ちょっと難しいところもある。その辺りをうまく考えていくか。

(2) 近況報告

事務局から近況報告があった。

- ・ 学生が全国から集まっているのは素晴らしい。是非全国制覇を。

→今後、大手私立も含めた年内入試、そこが定員を増やして行ってそこでの入学率が高まってくる。それぞれの都道府県内で年内に決めるという動きもある。県内の母体が少ないということもあるので、戦略としてしっかりと取り組んでいきたい。

5 その他

6 閉会